

今年度も、本校では SPS 認証校として、学校安全総合支援事業のモデル校として、組織的な学校安全の取り組みを進めていきたいと思います。

この通信では、本校の学校安全に関する本校の取り組みについて、紹介していきます。

さすまた講習会 4月9日（水）<小野警察署>

不審者が侵入した際の、さすまた利用について、小野警察署の方に講習をしていただきました。不審者に対応する人数が2人の時、3人の時、それ以上の人数の時と場面に応じて対応の仕方を教えていただきました。いざという時に、覚悟を決めて動くことや冷静に判断しながらも、大きな声を出して対応ができるよう日頃から意識することを共有することができました。



交通安全教室 4月28日（月）<小野警察署・市民安全部くらし安心グループ>

今年度も小野警察署と市民安全部のくらし安全グループの方々の指導・協力のもと、信号機のある道路の歩行、自転車の乗り方について、交通安全教室を実施しました。歩行・自転車とともに、小野警察署の方からのアドバイスを聞き、学部や学級ごとに実践形式の練習を行いました。

歩行では、交差点の左右確認や渡り方、信号機の見方・待ち方を中心に行いました。また、車との接触の危険がある箇所の確認も行いました。自転車講習では、実際に車を置くなど、一旦停止して安全を確認する場面や、一度自転車を降りて横断歩道や踏切を渡る場面など工夫されたコースで、「なぜ危ないのか」その場で教えてもらしながら練習を行うことができました。最後は、9年生の代表者が学んだことをみんなの前で披露しました。一つ一つ確認しながら歩行し、みんなのお手本となりました。子ども達の成長や学びを実感でき、充実した講習会になりました。毎年継続することで、交通安全について、意識の高まりや正しい歩行や自転車の乗り方の理解の積み上げをさらに目指していきたいと思います。

今後は、校外学習や歩行訓練等で、学んだことを実際の場面で確認し、生活キャンプや修学旅行での安全な行動へつなげていきたいと思います。



窒息対応 朝研修 4月30日(水)



本校の栄養教諭が、児童生徒の窒息対応について研修を実施しました。

まず始めに、窒息が起きやすい状況やメカニズム、食べ物が喉につかえている時の症状（むせる・ゼーゼー・顔色が悪い・チョークサイン等）について共通理解を行いました。次に、食べ物がのどに詰まった時の対応として、食べ物を口から出すために、腹部突き上げ法（ハイムリック法）や背部叩打法等について学びました。最後は、窒息状態を防ぐ方法や対策を知り、安全な食事指導の実施に向けて意識を高めることができました。

緊急時対応訓練（誤嚥 窒息対応）心肺蘇生研修 4月30日(水) <小野市消防本部>

緊急時対応訓練（誤嚥による窒息対応）を4月30日の放課後に実施しました。

小学部の児童が給食中、寝入ってしまい、窒息状態になり、様態が急変してしまうという想定で訓練を実施しました。

学校安全対応マニュアルをもとに、事前に本部・GOGO班・レスキュー班・避難誘導班・救出班・救急班・搬出連絡班に分かれ、訓練のめあてを話し合い、共有しました。

実際の訓練では、迅速な対応ができました。児童への初期対応、救急車要請や現場応援等、各自の役割を果たすことができました。

トランシーバーの基本的な使い方の確認やライブ119の活用もでき、充実した訓練になりました。



訓練終了後、班ごとと、全体で振り返りを行いました。改善点として、トランシーバーのやり取りで情報が正しく伝わったかどうか、報告するタイミングが重なり、一方の報告が伝わらなかった等が挙げられ、複数のチャネルを使用することで軽減できるのではという助言を頂きました。また、現場応援も迅速に集まり、対応できる人員が多く余剰が発生する時間がありました。本部だけでなく現場で指示をする人を明確にしておく必要があるという意見がでました。その他、各役割から振り返りで反省や意見が沢山出ました。この振り返りの内容を日常生活の中で意識し、活かしていきたいと思いました。



訓練の振り返り終了後、緊急時にすぐ動くことができるよう、消防の方から心肺蘇生講習を受けました。

スクールバス運転手や支援員も一緒に研修し、全員で子ども達を守っていく意識の高揚を実感しました。

<SHELLモデル>

SHELLモデルは、事故の原因を探るための分析方法のひとつで、オランダ航空のフランク・ホーキンズ氏が提唱したものです。多様な視点から事故やヒヤリハットの内容を分析・検証を実践すれば、子ども達の安全安心な環境を守ることにつながると言われています。

m (management):会社の組織、管理、体制、組織の安全文化醸成など、管理的要素。

S (Software) : 手順書チェックリストなどのソフトウェア。

H (Hardware) : 機械、道具、設備などのハードウェア。

E (Environment) : 温度・湿度・照明の明るさなどの作業環境。

L (Liveware) : 本人を取り巻く周囲の人々。

L (Liveware) : 本人(当事者)。※中心に位置するL。

SHELLモデルを用いて客観的な視点で事柄を分析することで、職員の安全意識の向上に役立ち、事故防止につながります。ヒヤリハット解消においても有効な手段と言われているので、是非一度活用し、分析していきましょう。

